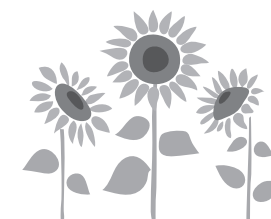


# スコア映画サロンのお知らせ vol.287



◆日時：2024年7月28日(日) 14:00~18:00

◆会場：名古屋国鉄会館  
 (わからない方は10分前にスコアレに集合またはお問い合わせください)  
 ※映画サロンは禁酒禁煙です。

◆参加費：1000円(初参加の方は無料です)

## 課題映画

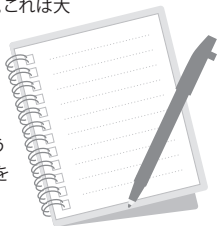
- ▷ **フェラーリ**  
 (7/5よりミッドランドスクエアシネマほかにて公開)
- ▷ **お母さんが一緒**  
 (7/12よりミッドランドスクエアシネマほかにて公開)

## サロンメモ

濃密な2本だった。まずは「関心領域」。ユニークな発想の物語を凝った構成と音響で作り上げ、秀逸なタイトルで仕上げる。この映画が素晴らしいのは、80年ほど前のドイツを舞台にしながら現在の世界や日本に通じる内容である事。演出が凝り過ぎている、収容所の中と外を対比させてほしかった等の意見もあったが、サロンの皆さんにはこの映画の意図は届いていた。ただ関心領域の狭さは恐らくもっと加速していく。言い換えれば無関心領域はどんどん広がっていく。今は届いている所にもいづれ届かなくなるかもしれない。恐ろしい時代は目に前に。

そしてもっと切実な「あんのこと」。別タイトルは「無関心領域」。入江悠監督を見直したとの意見が複数出たが、私も全く同意見。更に言えば、こんな映画を作らせた製作会社にも敬意を表したい。辛くて逃げ出したくなったという意見、低年齢からクスリ漬けであんな簡単にクスリが抜けるのかという意見なども出た。そんな中圧倒的に多く出たのが河合優実の演技力と存在感への賞賛。多少出たのが佐藤二朗のキャスティングへの?マーク。ただ稲垣吾郎も含めて、この映画が案外見易いのはこういった有名俳優が出てくる事だろう。これは大きい。あまりのリアリズムからやや距離を置かせてくれるという意味だが、加えて本来届かない層にも届く可能性が広がる利点もある。その他、子供を強引に預けられて以降の解釈も色々出た事を付け加えておく。

届くの届かないだの、作り手でない私が気にする事もないだろうに、いつも気になってしまう。綺麗事を言う気はないが、映画の力を信じていたい気持ちは映画好きとして持っているつもりなので。(小西)



初めて参加される方は参加費無料！10分前にシネマスコアレまでお越しください。

6/23(日)	関心領域	あんのこと	ミッシング	碁盤斬り	ありふれた教室	告白 コンフェッション	マッドマックス フュリオサ	違国日記
サロン参加者								
榊原 隆裕	5	5	5	5	4	5		
岡村 昌俊	4	5	4	4	3		3	
高橋 広河	3	4	4	4	5	3	4	4
白石 麻由子	5	4	3	5				
加藤 千穂子	5	5				4	5	
加藤 賢二	4	4						
三田 正継	5	5	5	4	5	4		5
山本 正明	4	3	4	5	5	3	3	3
横井 清	4	5	4	5	4	3	4	3
牧野 鐘徳	4	4	5	4	5		4	4
斎藤 文彦	4	5						
近藤 生久子	5	4						
井上 章	4	5	5	4	5	3	4	4
小西 孝直 <small>(スコアレサロン代表)</small>	5	5	5	3	4			
坪井 篤史 <small>(スコアレ支配人)</small>	3		5	4		3	3	5
木全 純治 <small>(スコアレ代表)</small>	5	4	4	5	5		5	